

平成 25 年度

県民世論調査

県の基本政策について

移住の促進について

「よさこい健康プラン21」の重点課題について

介護保険制度について

少子化対策について

人口減少社会を踏まえた女性の活躍促進について

生涯学習に対する意識について

暮らしに関する意識について

高 知 県

はじめに

高知県は、全国に先駆けて、人口の自然減による経済規模の縮小や、過疎化の進展、災害の多発といった数多くの課題に直面してきました。

今後全国的な問題となってくる、そうした課題に正面から取り組み、「課題解決の先進県」となるべくするためにも、県では、産業振興計画の推進による「経済の活性化」や南海トラフ地震対策などの「県民の安全・安心の確保」をはじめ、「日本一の健康長寿県づくり」、「教育の充実と子育て支援」、「インフラの充実と有効活用」の5つの基本政策のほか、中山間対策の抜本強化など、県勢浮揚に向けた取り組みを進めています。

こうした取り組みを進めていくためには、県民の皆様のニーズを的確に把握、分析し、それを生かした政策づくりが大変重要であると考えています。

この調査は、県民の皆様の県政に対する関心やご意見などを把握し、その結果を県政運営の基礎資料とするために実施したものです。

本年度は、「県の基本政策」、「移住の促進」、「「よさこい健康プラン21」の重点課題」、「介護保険制度」、「少子化対策」、「人口減少社会を踏まえた女性の活躍促進」、「生涯学習に対する意識」「暮らしに関する意識」の8つのテーマについて調査しました。

これらの調査に集約された県民の皆様の声を、今後の県政に十分反映させていきたいと考えています。また、各方面でも幅広く活用されることを願っています。

おわりに、この調査にご協力いただきました県民の皆様をはじめ、関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成25年12月

高知県総務部長 小谷 敦

目 次

	ページ		
I 調査の設計	1		
II 調査結果の見方	3		
III 調査対象者の特性	5		
1. 広域市町村圏別の配布・回収状況	5		
2. 対象者の特性	5		
IV 調査結果のあらまし	8		
V 調査結果〔解説・グラフ〕	15		
〔1〕 県の基本政策について		解説・グラフ ページ	数 表 ページ
1. 「経済の活性化」について特に力を入れるべき施策	15	…	207
2. 「南海トラフ地震対策の抜本強化」について特に力を入れるべき施策	19	…	208
3. 「日本一の健康長寿県づくり」について特に力を入れるべき施策	23	…	209
4. 「教育の充実と子育て支援」について特に力を入れるべき施策	27	…	210
5. 「インフラの充実と有効活用」について特に力を入れるべき施策	31	…	211
6. 「中山間対策の抜本強化」について特に力を入れるべき施策	35	…	212
7. 6つの基本的な政策・事業のうち、より一層力を入れて取り組むべきもの	39	…	213
8. 6つの政策・事業以外に力を入れて取り組むべきだと考えられるもの	281		
〔2〕 移住の促進について			
9. 移住促進の取組についての意識	43	…	214
副問1 移住促進について「大いに進めるべき」「進めるべき」を選んだ理由	45	…	215
副問2 Iターンによる移住促進で力を入れるべきと思うもの	49	…	216
副問3 移住促進につなげていく取組で協力したいと思うもの	53	…	217
副問4 移住促進について「あまり進めるべきでない」「進めるべきでない」を選んだ理由	57	…	218
〔3〕 「よさこい健康プラン21」の重点課題について			
【高血圧対策について】			
10. 高血圧の原因となる生活習慣の認識	61	…	219

11. 家庭での血圧測定の有無	65	220
副問 家庭での血圧測定の頻度	67	221
12. 普段の収縮期血圧値(上の値)	69	222
13. 医療機関や健康診断で高血圧と言われたことの有無	72	224
副問1 高血圧治療の有無	74	225
副問2 家庭での血圧値を医師に伝えているか	77	227
副問3 高血圧の薬を医師の指示通りどの程度服用しているか	79	228
【子どもの頃からの健康的な生活習慣の定着について】		
14. 子どもが健康的な生活習慣を身につけるのに足りないと思うもの	81	229
15. 子ども頃の健康的な生活習慣を実践するには	85	230
〔4〕 介護保険制度について		
16. 介護を受けたいと思う場所	89	231
副問 自宅以外で介護を受けたい理由	91	232
17. 家族に介護が必要になった場合に介護を受けさせたい場所	95	233
副問1 自宅で介護を受けさせたい理由	97	234
副問2 自宅以外で介護を受けさせたい理由	101	235
18. 自宅で介護を受ける時に必要な条件	105	236
19. 介護サービスの整備と介護保険料についての意識	109	237
20. 特別養護老人ホームなどの施設を選ぶ時に重視すること	111	238
21. 住み慣れた地域や住まいで安全安心に生活するために重視するもの	115	239
〔5〕 少子化対策について		
【子育てしやすい環境づくりについて】		
22. 安心して妊娠・出産できる環境づくりのため、行政が取組を強化するもの	119	240
23. 子育てしながら働き続けられる環境整備のため、行政が取組を強化するもの	123	241
【未婚化・晩婚化対策について】		
24. 交際相手や結婚相手に出会うことを期待して行う(行った)こと	127	242
25. 交際相手や結婚相手に出会うために利用したい(勧めよう)と思うもの	131	244
26. 婚活のセミナーで参加したい(参加を勧めたい)と思うもの	136	245
〔6〕 人口減少社会を踏まえた女性の活躍促進について		
27. 女性が職業を持つことへの意識	142	247

28. 女性にとって高知県は働きやすい県と思うか	144	248
副問 働きやすいを選んだ理由	148	249
29. 女性が働くにあたっての課題	152	250
30. 女性が地域で生き生きと働くため、行政が取り組むべきもの	158	254
31. 女性が地域で生き生きと働くための具体的な提案	285	
〔7〕生涯学習に対する意識について		
32. この1年間の生涯学習の状況	164	258
副問1 生涯学習をしている目的	168	260
副問2 生涯学習をしている場所や形態	172	262
副問3 生涯学習をどのように生かしているか	176	264
副問4 生涯学習をしていない理由	180	266
33. 今後の生涯学習についての意識	184	268
34. 生涯学習を盛んにしていくため、行政が力を入れるべきこと	188	270
〔8〕暮らしに関する意識について		
35. いざという時に頼れる人が身近にいるか	193	274
36. 親しい友人・仲間の有無、定期的に顔を出す場所の有無	195	275
37. 飲食店で初対面と意気投合したことがあるか	197	276
38. 高知の自然を身近に感じることもあるか	199	277
39. 自分の持っている才能などを十分に発揮できていると思うか	201	278
40. 高知に生まれて(生活して)良かったと思うか	203	279
41. これからも高知県に住み続けたいと思うか	205	280
VI 調査結果[数表]	207	
VII 自由回答[問8]	281	
VIII 自由回答[問31]	285	
IX 自由回答[その他]	287	
X 調査票[単純集計結果]	305	

I 調査の設計

1. 調査の目的

この調査は、県民のニーズ・意識などを把握し、県政運営上の基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査の事項

(1) 県の基本政策について

「経済の活性化」について特に力を入れるべき施策／「南海トラフ地震対策の抜本強化」について特に力を入れるべき施策／「日本一の健康長寿県づくり」について特に力を入れるべき施策／「教育の充実と子育て支援」について特に力を入れるべき施策／「インフラの充実と有効活用」について特に力を入れるべき施策／「中山間対策の抜本強化」について特に力を入れるべき施策／6つの基本的な政策・事業のうち、より一層力を入れて取り組むべきもの／6つの政策・事業以外に力を入れて取り組むべきだと考えられるもの

(2) 移住の促進について

移住促進の取組についての意識／移住促進について「大いに進めるべき」「進めるべき」を選んだ理由／Iターンによる移住促進で力を入れるべきと思うもの／移住促進につなげていく取組で協力したいと思うもの／移住促進について「あまり進めるべきでない」「進めるべきでない」を選んだ理由

(3) 「よさこい健康プラン21」の重点課題について

高血圧の原因となる生活習慣の認識／家庭での血圧測定の有無／家庭での血圧測定の頻度／普段の収縮期血圧値（上の値）／医療機関や健康診断で高血圧と言われたことの有無／高血圧治療の有無／家庭での血圧値を医師に伝えているか／高血圧の薬を医師の指示通りどの程度服用しているか／子どもが健康的な生活習慣を身につけるのに足りないと思うもの／子どももの頃からの健康的な生活習慣を実践するには

(4) 介護保険制度について

介護を受けたいと思う場所／自宅以外で介護を受けたい理由／家族に介護が必要になった場合に介護を受けさせたい場所／自宅で介護を受けさせたい理由／自宅以外で介護を受けさせたい理由／自宅で介護を受ける時に必要な条件／介護サービスの整備と介護保険料についての意識／特別養護老人ホームなどの施設を選ぶ時に重視すること／住み慣れた地域や住まいで安全安心に生活するために重視するもの

(5) 少子化対策について

安心して妊娠・出産できる環境づくりのため、行政が取組を強化するもの／子育てしながら働き続けられる環境整備のため、行政が取組を強化するもの／交際相手や結婚相手に会うこと

を期待して行う（行った）こと／交際相手や結婚相手に出会うために利用したい（勧めよう）と思うもの／婚活のセミナーで参加したい（参加を勧めたい）と思うもの

(6) 人口減少社会を踏まえた女性の活躍促進について

女性が職業を持つことへの意識／女性にとって高知県は働きやすい県と思うか／働きやすいを選んだ理由／女性が働くにあたっての課題／女性が地域で生き生きと働くため、行政が取り組むべきもの／女性が地域で生き生きと働くための具体的な提案

(7) 生涯学習に対する意識について

この1年間の生涯学習の状況／生涯学習をしている目的／生涯学習をしている場所や形態／生涯学習をどのように生かしているか／生涯学習をしていない理由／今後の生涯学習についての意識／生涯学習を盛んにしていくため、行政が力を入れるべきこと

(8) 暮らしに関する意識について

いざという時に頼れる人が身近にいるか／親しい友人・仲間の有無、定期的に顔を出す場所の有無／飲食店で初対面と意気投合したことがあるか／高知の自然を身近に感じることがあるか／自分の持っている才能などを十分に発揮できていると思うか／高知に生まれて（生活して）良かったと思うか／これからも高知県に住み続けたいと思うか

3. 調査の対象

県内全域から20歳以上の県民3,000人を抽出（各市町村の「選挙人名簿」より）

4. 対象者の抽出方法

層化二段無作為抽出法

5. 調査の方法

郵送法

6. 調査の期間

平成25年8月9日（金）～8月30日（金）までの22日間

7. 実査および集計

株式会社 相愛

8. 調査票配布数と回収状況

配布数 3,000票

有効回収数 1,712票（有効回収率 57.1%）

Ⅱ 調査結果の見方

1. 「Ⅴ 調査結果〔解説・グラフ〕」は「Ⅵ 調査結果〔数表〕」に基づき、要点のみを記述してあるので、「Ⅵ 調査結果〔数表〕」をあわせて参照すること。
2. 「Ⅵ 調査結果〔数表〕」の「サンプル」は有効調査人数を示し、比率（％）算出の基礎となっている。
3. 「Ⅵ 調査結果〔数表〕」に記入してある数値は、回答人数又は各回答項目に対する回答率であり、回答率は下記の式により求めている。

$$\text{回答率（％）} = \frac{\text{回答人数}}{\text{サンプル（有効調査人数）}} \times 100$$

なお、回答率は、小数第2位を四捨五入し、表示している。

4. 質問への回答方法は「1つだけ○印（どちらかに○印）」、「2つまで○印」、「3つまで○印」、「当てはまるものすべてに○印」などの方法を採用している。したがって、複数回答の質問は比率を合計すると100%以上になる。
5. 副問については、該当者の人数を母数として回答率を算出した。
6. 各質問に対する集計は、対象者の特性別（階層別）及び回答者別（質問間クロス）で分析した。

F1 性 別 … 男女の別

F2 年 代 別 … 20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上の6階層に分類

F3 職 業 別 … 農林業、漁業、商工サービス業自営、事務職、技術職、労務職、管理職、自由業、主婦、学生、無職、その他の12種類に分類

F4 婚 姻 状 況 … 未婚、既婚、その他（離別、死別を含む）の3種類に分類

F5 子 ども の 状 況 … 就学前の子どもがいる、小学生の子どもがいる、中学生の子どもがいる、高校生の子がいる、大学生・専門学校生等の子どもがいる、その他（上のいずれにも該当しない）、子どもはいないの7種類に分類

F6 世帯の年間収入 … 0～100万円未満、100～200万円未満、200～300万円未満、300～400万円未満、400～600万円未満、600～800万円未満、800～1,000万円未満、1,000万円以上の8種類に分類

F7 広 域 市 町 村 圏 … 高知市、安芸広域圏、南国・香美広域圏、嶺北広域圏、仁淀川広域圏、高吾北広域圏、高幡広域圏、幡多広域圏の1市7広域圏に分類

F8 沿 岸 部 別 … 沿岸部、非沿岸部の別

※ 対象者の職業別、広域市町村圏別及び沿岸部別判定は次のとおりである。

◆職業別

農 林 業 } 漁 業 }	(主婦の場合は家庭内の仕事と田畑、漁業に出る時間と比較して多い方をとる)
商工サービス業 自 営	(商店や工場などを自分でやっている人、家族従業者を含む)
事 務 職	(勤め人や公務員で主に事務系の仕事の人、課長以上を除く)
技 術 職	(主に技術系の仕事の人、看護師、保育士など、課長以上を除く)
労 務 職	(現場従業員、工員、運転手、店員、日雇い、大工など)
管 理 職	(勤め人・公務員で課長以上の場合、校長・教頭など)
自 由 業	(医師、弁護士、画家、僧侶、大学教授など)
主 婦	(家庭内の仕事が1日で最も多い場合)
学 生	(高校、短大、大学、その他の学校在学中)
無 職	(年金などで生活しているか、自分の収入がなく、または働いていない場合)
そ の 他	(上のいずれにも属さないもの)

◆広域市町村圏別

高 知 市	
安 芸 広 域 圏	室戸市、安芸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町、北川村 馬路村、芸西村
南国・香美広域圏	南国市、香南市、香美市
嶺北広域圏	本山町、大豊町、土佐町、大川村
仁淀川広域圏	土佐市、いの町、日高村
高吾北広域圏	佐川町、越知町、仁淀川町
高幡広域圏	須崎市、中土佐町、梶原町、津野町、四万十町
幡多広域圏	宿毛市、土佐清水市、四万十市、大月町、三原村、黒潮町

◆沿岸部別

居住地が沿岸部であると判断する目安は、海（海岸、岸壁、港、湾、河口付近）から直線距離で約5km（または車で約10分）とする。

Ⅲ 調査対象者の特性

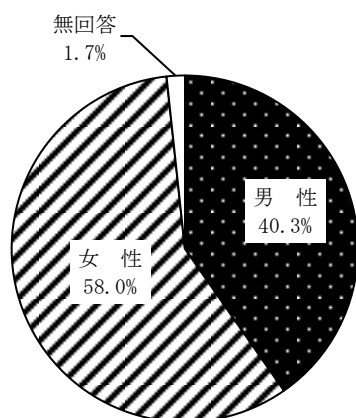
※構成比は小数第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合もある。

1. 広域市町村圏別の配布・回収状況

広域市町村圏	配布数(人)	有効回収状況		
		回答数(人)	回収率 (%)	構成比 (%)
高知市	1,322	717	54.2	41.9
安芸広域圏	222	116	52.3	6.8
南国・香美広域圏	433	250	57.7	14.6
嶺北広域圏	56	28	50.0	1.6
仁淀川広域圏	240	140	58.3	8.2
高吾北広域圏	109	55	50.5	3.2
高幡広域圏	245	129	52.7	7.5
幡多広域圏	373	209	56.0	12.2
無回答		68		4.0
合計	3,000	1,712	57.1	100.0

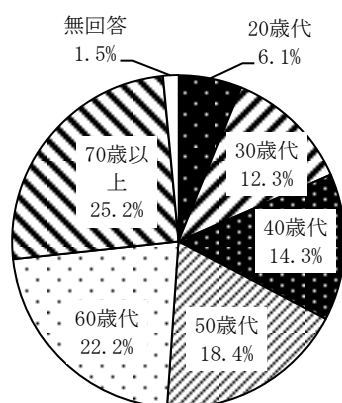
2. 対象者の特性

F1 性別



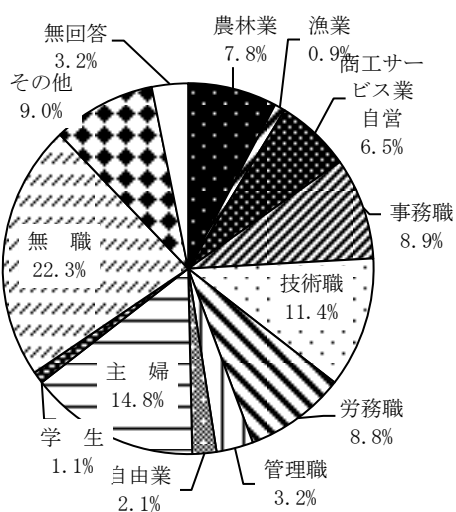
区分	回答数(人)	構成比 (%)
男性	690	40.3
女性	993	58.0
無回答	29	1.7
合計	1,712	100.0

F2 年代別



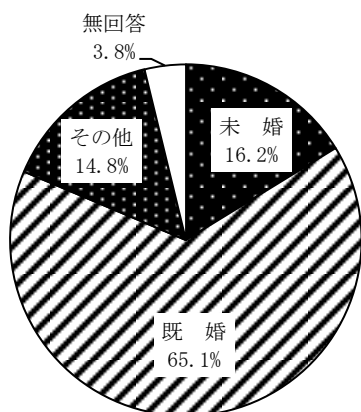
区分	回答数(人)	構成比 (%)
20歳代	105	6.1
30歳代	210	12.3
40歳代	245	14.3
50歳代	315	18.4
60歳代	380	22.2
70歳以上	431	25.2
無回答	26	1.5
合計	1,712	100.0

F 3 職業別



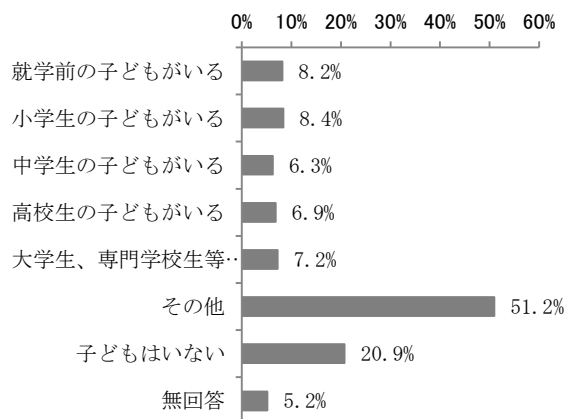
区分	回答数(人)	構成比 (%)
農林業	133	7.8
漁業	16	0.9
商工サービス業自営	112	6.5
事務職	152	8.9
技術職	195	11.4
労務職	151	8.8
管理職	55	3.2
自由業	36	2.1
主婦	254	14.8
学生	18	1.1
無職	382	22.3
その他	154	9.0
無回答	54	3.2
合計	1,712	100.0

F 4 婚姻状況別



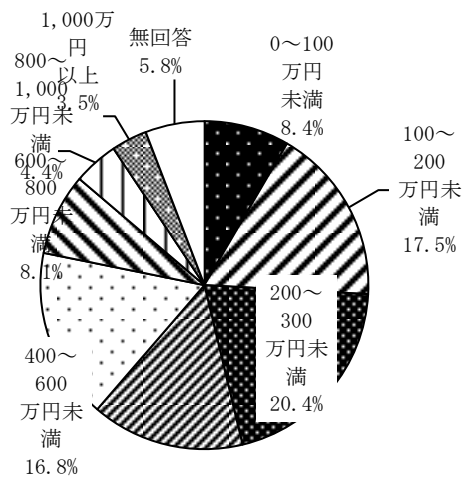
区分	回答数(人)	構成比 (%)
未婚	278	16.2
既婚	1,115	65.1
その他	254	14.8
無回答	65	3.8
合計	1,712	100.0

F 5 子どもの状況別 (複数回答)



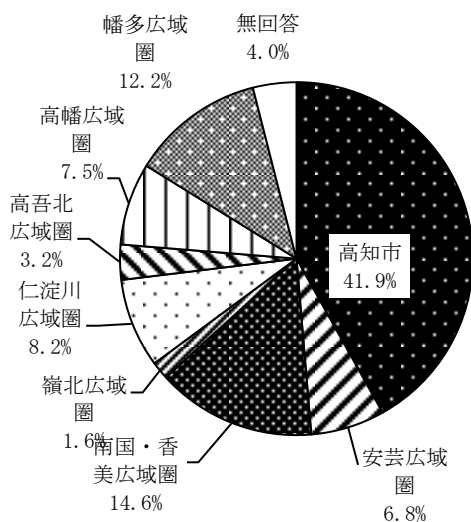
区分	回答数(人)	構成比 (%)
就学前の子どもがいる	141	8.2
小学生の子どもがいる	144	8.4
中学生の子どもがいる	108	6.3
高校生の子がいる	118	6.9
大学生、専門学校生等の子どもがいる	124	7.2
その他	877	51.2
子どもはいない	357	20.9
無回答	89	5.2
合計	1,712	

F 6 世帯の年間収入別



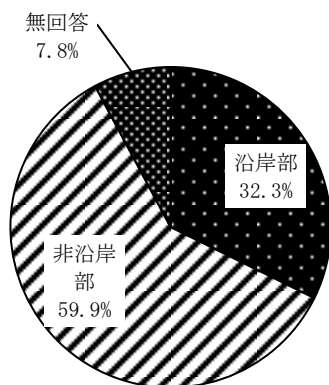
区分	回答数(人)	構成比 (%)
0~100万円未満	144	8.4
100~200万円未満	299	17.5
200~300万円未満	349	20.4
300~400万円未満	258	15.1
400~600万円未満	288	16.8
600~800万円未満	138	8.1
800~1,000万円未満	76	4.4
1,000万円以上	60	3.5
無回答	100	5.8
合計	1,712	100.0

F 7 広域市町村圏別



区分	回答数(人)	構成比 (%)
高知市	717	41.9
安芸広域圏	116	6.8
南国・香美広域圏	250	14.6
嶺北広域圏	28	1.6
仁淀川広域圏	140	8.2
高吾北広域圏	55	3.2
高幡広域圏	129	7.5
幡多広域圏	209	12.2
無回答	68	4.0
合計	1,712	100.0

F 8 沿岸部別



区分	回答数(人)	構成比 (%)
沿岸部	553	32.3
非沿岸部	1,025	59.9
無回答	134	7.8
合計	1,712	100.0

IV 調査結果のあらまし

〔1〕 県の基本政策について

〔「経済の活性化」について特に力を入れるべき施策〕（複数回答）

「農林漁業の生産地の強化」が 32.2%と最も高く、次いで「産業を担う人材の育成・確保」が 31.1%、「企業の誘致」が 27.2%と続いている。

〔「南海トラフ地震対策の抜本強化」について特に力を入れるべき施策〕（複数回答）

「避難場所や避難路の整備」が 65.8%と最も高く、2番目に割合の高い「地震を予知・観測・伝達する体制の強化」の 29.8%の倍以上の割合となっている。

〔「日本一の健康長寿県づくり」について特に力を入れるべき施策〕（複数回答）

「次代を担う子ども達を守り育てる環境づくり」が 41.5%と最も高く、次いで「地域で適切な医療を受けられる体制づくり」が 29.9%、「高齢者が安心して暮らせる地域づくり」が 27.2%と続いている。

〔「教育の充実と子育て支援」について特に力を入れるべき施策〕（複数回答）

「教員の資質・指導力の向上」が 45.0%と最も高く、次いで「公共心や規範意識を育む道徳教育の推進」が 29.4%、「児童生徒の学力向上に向けた学習習慣の確立」が 27.4%と続いている。

〔「インフラの充実と有効活用」について特に力を入れるべき施策〕（複数回答）

「国道や県道等の整備」が 42.6%と最も高く、次いで「公共交通機関の維持確保」が 32.5%、「風水害に対する河川や海岸等の整備」が 25.9%と続いている。

〔「中山間対策の抜本強化」について特に力を入れるべき施策〕（複数回答）

「地域での医療・介護等の確保対策」が 41.9%と最も高く、次いで「買い物や通院などを支える移動手段的確保対策」が 38.8%、「地域で収入を確保するための産業づくり」が 36.6%と続いている。

〔6つの基本的な政策・事業のうち、より一層力を入れて取り組むべきもの〕（複数回答）

「経済の活性化」が 62.6%と最も高く、次いで「南海トラフ地震対策の抜本強化など防災や防犯対策の推進による県民の安全・安心の確保」が 43.1%、「教育の充実と子育て支援」が 41.2%と続いている。

〔2〕移住の促進について

〔移住促進の取組についての意識〕

「大いに進めるべき」の31.7%と、「進めるべき」の36.9%を合わせると68.6%となり、半数を超えた人が移住の取り組みを進めるべきとしている。

〔移住促進について「大いに進めるべき」「進めるべき」を選んだ理由〕（複数回答）

「人口が減少し、地域経済が縮小しているから」が74.2%と最も高く、次いで「農業や林業、水産業の後継者が不足しているから」が50.6%と続いている。

〔Iターンによる移住促進で力を入れるべきと思うもの〕（複数回答）

「仕事の確保のための支援策の充実」が52.4%と最も高く、次いで「仕事や住む場所、趣味など、提供する情報の充実」が36.9%、「多くの方に高知ファンになっていただくための更なる情報発信」が23.9%と続いている。

〔移住促進につなげていく取組で協力したいと思うもの〕（複数回答）

「県外の知人等への贈答に県産品を利用」が33.6%と最も高く、次いで「県外からの観光客に対するおもてなし」が30.6%、「空き家や土地の提供（売却、賃貸借）」が28.9%と続いている。

〔移住促進について「あまり進めるべきでない」「進めるべきでない」を選んだ理由〕（複数回答）

「雇用の創出など、県外への若者等の流出を防ぐ施策を優先すべき」が63.7%と最も高い割合となっており、次いで「根本的な課題の解決につながらない」が38.2%と続いている。

〔3〕「よさこい健康プラン21」の重点課題について

【高血圧対策について】

〔高血圧の原因となる生活習慣の認識〕（複数回答）

「塩分の摂り過ぎ」が80.3%と最も高く、次いで「運動不足」が63.8%、「肥満」が58.3%と続いている。

〔家庭での血圧測定の有無〕

「ある」が62.0%で、「ない」が36.4%となっている。

〔家庭での血圧測定の頻度〕

「月に1回以下」が37.4%と最も高く、次いで「月に2－3回」が20.7%、「ほぼ毎日」が17.9%と続いている。

〔普段の収縮期血圧値（上の値）〕

「130mmHg未満」が53.6%と最も高く、次いで「130－139mmHg」が25.2%、「140－159mmHg」が10.3%と続いている。

〔医療機関や健康診断で高血圧と言われたことの有無〕

「ない」が60.5%で、「ある」が38.5%となっている。

〔高血圧治療の有無〕

「過去から現在にかけて継続的に受けている」が71.0%と最も高く、次いで「これまでに治療を受けたことがない」が15.2%、「過去に受けていたことがあるが、現在は受けていない」が8.6%と続いている。

〔家庭での血圧値を医師に伝えているか〕

「伝えている」が73.9%と最も高く、次いで「伝えていない」が12.3%、「家庭で血圧の測定は行っていない」が9.9%と続いている。

〔高血圧の薬を医師の指示通りどの程度服用しているか〕

「指示通りに服用している」が92.5%と最も高く、次いで「1週間のうち8割程度は指示通りに服用している」が2.8%、「1週間のうち5割程度は指示通りに服用している」が1.0%と続いている。

【子どもの頃からの健康的な生活習慣の定着について】

〔子どもが健康的な生活習慣を身につけるのに足りないと思うもの〕（複数回答）

「朝ごはんを食べること」が72.7%と最も高く、次いで「早ね早おきをすること」が54.7%、「運動をすること」が43.9%と続いている。

〔子どもの頃からの健康的な生活習慣を実践するには〕（複数回答）

「保護者自身が率先して、生活習慣を改善していくこと」が66.8%と最も高く、次いで「家庭内で話し合い、子どもと約束事を決めること」が55.3%、「早ね早おき朝ごはん」といった啓発活動をもっと行うこと」が23.4%と続いている。

〔4〕介護保険制度について

〔介護を受けたいと思う場所〕

「今住んでいる自宅」が 38.4%と最も高く、次いで「自宅ではないが、介護サービスなどが受けられる高齢者向けの集合住宅」が 24.9%、「住み慣れた地域にある認知症のグループホームや小規模な特別養護老人ホームなどの介護施設」が 16.9%と続いている。

〔自宅以外で介護を受けたい理由〕（複数回答）

「自宅での介護は大変で家族に負担がかかるから」が 67.3%と最も高く、次いで「自宅では、食事や買い物、通院などの日常生活に困難が生じるようになるから」が 46.5%、「施設であれば 24 時間専門的な介護が受けられ安心だから」が 45.8%と続いている。

〔家族に介護が必要になった場合に介護を受けさせたい場所〕

「今住んでいる自宅」が 37.1%と最も高く、次いで「住み慣れた地域にある認知症のグループホームや小規模な特別養護老人ホームなどの介護施設」が 19.6%、「自宅ではないが、介護サービスなどが受けられる高齢者向けの集合住宅」が 19.0%と続いている。

〔自宅で介護を受けさせたい理由〕（複数回答）

「住み慣れた自宅で生活を続けさせたいから」が 71.5%と最も高く、次いで割合の高い「自宅での介護を本人が希望しているから」の 26.5%と比べると、45 ポイントの差がついている。

〔自宅以外で介護を受けさせたい理由〕（複数回答）

「施設であれば 24 時間専門的な介護が受けられ安心だから」が 61.3%と最も高く、次いで割合の高い「介護の方法がよくわからず、自宅では、適切な介護ができるかどうか不安があるから」の 39.7%と比べると、21.6 ポイントの差がついている。

〔自宅で介護を受ける時に必要な条件〕（複数回答）

「家族にあまり介護負担をかけないですむ軽度の要介護状態である」が 54.7%と最も高く、次いで「介護を受けている者の症状が急に悪化した時に、すぐに、往診してくれる医師がいたり、病院へ入院できる」が 53.7%となっている。

〔介護サービスの整備と介護保険料についての意識〕

「介護保険料は現在よりあまり高くならない範囲で、どちらかといえば施設サービスを優先して整備すべき」が 38.9%と最も高く、「介護保険料は現在よりあまり高くならない範囲で、どちらかといえば在宅サービスを優先して整備すべき」が 31.1%と続き、この 2 つが上位となっている。一方、「介護保険料は高くなっても、…」という 3 つの項目の合計は 24.5%となっている。

〔特別養護老人ホームなどの施設を選ぶ時に重視すること〕（複数回答）

「介護がきめ細やかであること」が 54.4%と最も高く、次いで「具合が悪くなったときに施設で治療や看護を受けられること」が 53.0%、「職員に家族的な雰囲気があること」が 50.9%と続いている。

〔住み慣れた地域や住まいで安全安心に生活するために重視するもの〕（複数回答）

「必要なときに在宅で十分な「医療」が受けられるよう、取り組みを強化すべき」が 53.8%と最も高く、次いで「在宅で満足のいく「介護」が受けられるよう、取り組みを強化すべき」が 42.6%と続いている。

〔5〕 少子化対策について

【子育てしやすい環境づくりについて】

〔安心して妊娠・出産できる環境づくりのため、行政が取組を強化するもの〕（複数回答）

「出産後も働き続けられる環境の整備（出産や子育て支援制度を充実する企業への優遇措置・啓発など）」が 74.7%と最も高く、次いで「出産に伴う費用の助成（出産一時金の増額など）」が 36.3%、「周産期医療体制の整備（産科・小児科医や助産師の養成など）」が 36.2%と続いている。

〔子育てしながら働き続けられる環境整備のため、行政が取組を強化するもの〕（複数回答）

「子育て世代の雇用の安定化（非正規雇用の処遇改善など）」が 45.0%と最も高く、次いで「保育サービスの充実（保育所の充足や、延長保育・病児保育など）」が 44.7%であり、この上位 2 項目で 40%を超えている。

【未婚化・晩婚化対策について】

〔交際相手や結婚相手に出会うことを期待して行う（行った）こと〕（複数回答）

「友人に紹介を頼む」が 21.8%となっており、次いで「お見合いをする」が 21.1%、「仲間同士の合コンに行く」が 16.6%と続いている。

〔交際相手や結婚相手に出会うために利用したい（勧めよう）と思うもの〕（複数回答）

「気軽に行ける相談場所の常設」が 33.5%と最も高く、次いで「各種セミナー（マナー、服装、コミュニケーション、自己アピール、自己啓発、自己理解・他者理解、婚活パーティー必勝法 等）」が 29.0%と続いている。

〔婚活のセミナーで参加したい（参加を勧めたい）と思うもの〕（複数回答）

「出会いイベントと併せて実施するセミナー」が 36.4%と最も高く、次いで「カフェ、飲食店などでのセミナー」が 22.7%と続いている。

〔6〕人口減少社会を踏まえた女性の活躍促進について

〔女性が職業を持つことへの意識〕

「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が 53.2%と最も高く、2位の「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」の 29.2%を大きく引き離している。また、「女性は職業を持たない方がよい」が 0.4%にとどまっている。

〔女性にとって高知県は働きやすい県と思うか〕

「どちらかと言えばそう思わない」が 36.4%と最も高く、次いで「どちらかと言えばそう思う」が 30.5%、「そう思わない」が 18.6%と続いている。また「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合が 55.0%となっており、半数を超えている。

〔働きやすいを選んだ理由〕（複数回答）

「周囲に働いている女性が多い」が 66.8%と最も高く、次いで「女性が働くことに対して周囲の理解がある」が 66.3%となっている。

〔女性が働くにあたっての課題〕（複数回答）

「勤務時間が、長時間かつ固定的で、家庭と仕事との両立が困難」が 32.9%と最も高く、次いで「出産等で退職した女性が再就職を希望しても、支援する制度がない」が 30.1%、「男性が家事、子育て、介護等を手伝ってくれない」が 29.1%と続いている。

〔女性が地域で生き生きと働くため、行政が取り組むべきもの〕（複数回答）

「育児のサービスをもっと利用しやすくする（保育園や一時預かりなど）」が 54.4%と最も高く、次いで「出産等のために仕事を辞めた女性が再就職する企業への支援を行う（助成金など）」が 36.8%、「女性を積極的に採用・登用する企業への優遇措置を行う」が 27.4%と続いている。

〔7〕生涯学習に対する意識について

〔この1年間の生涯学習の状況〕（複数回答）

「生涯学習をしたことがない」が35.3%と最も高く、次いで「健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）」が24.1%、「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」が18.9%と続いている。

〔生涯学習をしている目的〕（複数回答）

「その学習が好きであったり、人生を豊かにするため」が54.7%と最も高く、次いで「健康の維持・増進のため」が45.8%、「他の人との親睦を深めたり、友人を得るため」が30.0%と続いている。

〔生涯学習をしている場所や形態〕（複数回答）

「公民館や生涯学習センターなど公の機関における講座や教室」が31.1%と最も高く、次いで「自宅での学習活動（書籍など）」が30.5%、「同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動」が28.3%と続いている。

〔生涯学習をどのように生かしているか〕（複数回答）

「自分の人生がより豊かになっている」が54.7%と最も高く、次いで「自分の健康を維持・増進している」が48.1%、「家庭・日常の生活に生かしている」が33.3%と続いている。

〔生涯学習をしていない理由〕（複数回答）

「仕事が忙しくて時間がない」が35.8%と最も高く、次いで「特に理由はない」が28.1%、「きっかけがつかめない」が24.8%と続いている。

〔今後の生涯学習についての意識〕（複数回答）

「健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）」が40.6%と最も高く、次いで「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」が38.5%、「教養的なもの（文学、歴史、科学、語学など）」が20.5%と続いている。

〔生涯学習を盛んにしていくため、行政が力を入れるべきこと〕（複数回答）

「公民館や生涯学習センターなどの公の機関におけるサービスを充実する（講座の充実、開館時間の拡大、相談窓口の充実、施設間の連携など）」が40.3%と最も高く、次いで「情報を一元化して提供するなど、生涯学習に関する情報を得やすくする」が25.5%と続いている。

[8] 暮らしに関する意識について

[いざという時に頼れる人が身近にいるか]

「いる」と「ある程度いる」を合わせた割合が全体の8割を超えている。

[親しい友人・仲間の有無、定期的に顔を出す場所の有無]

「たくさんいる(ある)」と「ある程度いる(ある)」を合わせると75.6%となり全体の半数を超えている。

[飲食店で初対面と意気投合したことがあるか]

「大いにある」「ある程度ある」を合わせた割合は34.5%となり、全体の3割程度が飲食店で初対面の人と意気投合したことがあると答えている。

[高知の自然を身近に感じることもあるか]

「大いにある」「ある程度ある」を合わせた割合が全体の8割を超えており、大半の方が高知の自然を身近に感じている結果となっている。

[自分の持っている才能などを十分に発揮できていると思うか]

「そう思う」「どちらかというと思う」を合わせた割合は、44.5%であり、「そう思わない」「どちらかというと思わない」を合わせた割合は、51.7%となっている。

[高知に生まれて（生活して）良かったと思うか]

「思う」と「ある程度思う」を合わせた割合は75.7%となっており、全体の半数を超えている。

[これからも高知県に住み続けたいと思うか]

「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせた割合は89.3%となっており、約9割の人が高知県に住み続けたいと思っている。